

公益社団法人日本地球惑星科学連合

2019 年度第 2 回理事会議事録

1. 開催日時 2019 年 7 月 12 日(金) 15:00～18:45

2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 105 号室

3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 14 名 (定足数 11 名 会議成立)

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 ウォリス サイモン

理事 田近 英一

理事 中村 正人

理事 古村 孝志

理事 阿部 なつ江

理事 市川 洋

理事 小口 千明

理事 河宮 未知生

理事 木村 学

理事 倉本 圭

理事 中村 昭子

理事 浜野 洋三

理事 道林 克禎

監事 加藤 照之

監事 鈴木 善和

監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘

大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬

大気水圏科学セクション幹事 川合 義美

固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治

固体地球科学セクションバイスプレジデント 田中 聡

学協会長会議議長 榎並 正樹

JpGU-AGU Joint Meeting 2020 大会タスクフォース 末広 潔

午後 15 時 00 分、定数に達したので川幡穂高会長が開会を宣した。インターネット電話 ZOOM を利用し、遠隔地から参加する役員が審議に参加できることを確認した。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議した。これを承認した。

今回承認された 2019 年 7 月 11 日 17 時時点の新入会員を含む正会員をもって、次回の代議員選挙の選挙人とすることを確認した。

第 2 号議案 新入会賛助会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 3 号議案 選挙管理委員会設置と選挙日程設定の件

2020 年度選挙管理委員会を設置し、案の通り委員を承認した。また選挙日程を案の通り承認した。

第 4 号議案 委員会委員承認の件

任期終了に伴い、大会運営委員会ならびに情報システム委員会委員の承認を行った。また、環境災害対応委員会、ジャーナル編集委員会の新任委員を承認した。

第 5 号議案 「アースサイエンスウィーク・ジャパン in 静岡 2019」の共催

「アースサイエンスウィーク・ジャパン in 静岡 2019」の共催について審議した。これを承認した。

第 6 号議案 会長声明「京都大学による研究不正調査結果と論文撤回を受けて」の件

会長声明「京都大学による研究不正調査結果と論文撤回を受けて」について、案を検討した。会長声明として発出することを承認した。

今後は研究不正に対応する規則の整備を検討する。

第 7 号議案 その他

緊急動議があり、職員 6 名に対し大会一時金（一律 10 万円）を支給することを検討した。これを承認した。

7. 報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告

2019 年大会の参加に関してアンケート調査を行ったことと現段階までに寄せられた回答について報告があった。7 月のメールニュース巻頭言でも会員に対して、アンケート調査をお願いした。9 月理事会で、その結果も含めて議論し、来年以降の JpGU 大会に反映させ、改革していく予定であるとの発言があり、これが承認された。

2. ウォリス サイモン理事（グローバル戦略担当）職務報告

グローバル戦略について活動報告があった。Taiwan Geosciences Assembly にて Chinese Geoscience Union との Letter of Intent に署名をした。今後は MOU 締結に向けて詰めの作業を行うこととなった。

大会の国際化に関連して、社員総会で来年の AGU とのジョイントミーティングでは一層の国際化を進めていきたいという趣旨の報告をしたことについて説明があった。学協会による共催セッションについても、来年は特に共同開催なので英語セッションとして提案をしていただくよう、会長から依頼文を送ることとなった。また、コンビーナーに対しては、グローバル戦略担当理事から依頼文を送ることとなった。

財務委員会から、英語化と国際化を分けて考え、国際化のためには必ずしも英語化だけではなく AI 等の記述を用いて翻訳を行うといったやり方もあるという案が示された。しかし、財政的な側面も含めて中長期的な側面と、来年の共同開催向けての短期的な対処について分けて考えた方がよいとの意見もあった。

2020 年のジョイントミーティングについては末広ヘッドを中心とした「JpGU-AGU Joint Meeting 2020 大会 TF」で、英語化推進協力の依頼を発出してゆくこととなった。

3. 田近英一理事（広報普及担当）職務報告

高校生セッションの開催報告があった。今年は 80 件の発表があった。現在のところ 80 件を受付の上限としている。今後受け入れを増やすことも検討したいが、審査員の確保や負担軽減、また口頭説明の時間の確保などの懸念事項がある。

またハイライト論文の効果や選出方法についての質問があり、今後引き続き検討していくとした。

4. 中村正人理事（財務担当）職務報告

財務の状況について報告があった。2019 年大会の収支について現段階での見通しが報告された。

財務委員会から「将来ビジョン TF」の設立が提案された。前向きに検討することとなった。

5. 古村孝志理事職務報告

「ジオエシックス (Geoethics) TF」の活動に関して進捗状況が報告された。本理事会に先立ち、TF 会議を 13 時より 14 時 30 分まで実施した。今後の議論について以下の 5 件のテーマについて検討していく。1. 倫理規定の設置準備、倫理審議中の退会に関する規則について古村 TF 委員長を中心に検討、2. 論文の質の確保を田近 TF 委員 (広報普及委員会) を中心に検討、3. 災害への対応や社会との連携を松本 TF 委員 (環境災害対応委員会) を中心に検討、4 オープンデータに関連して、データの保全、活用、データ取得者の評価などを村山 TF 委員 (情報システム委員会) を中心に検討、5. 健全かつ持続的な研究活動を進められるような研究環境についてを小口 TF 委員 (ダイバーシティ推進委員会) を中心に検討することとなった。

これらを議論することで、JpGU ポリシーの設定の検討、制度設計の理事会への提案、特別セッションの開催、国内外の学会での事例の収集を行っていくことを予定している。出口としては、規則の制定、来年の AGU、EGU も含めた共同セッションの開催、General statement の発信などが候補となっているとの発言があった。

6. 西 弘嗣理事 (総務担当) 職務報告

西理事に変わり、古村理事より昨年度及び本年度の後援等実績が報告された。

参加者への VISA 申請用書類の発行について、見直しを行っている旨報告があった。VISA 申請用書類の発行については原則として発表者に限ることとするが、それ以外の参加者の対応については検討中である。返金については VISA が降りなかった場合でも返金を認めないこととする。申請用のシステムの制作を検討している。滞在期間については原則として大会開催期間の前後 1 日とする。本件の対象者の設定に応じて、対応が多岐にわたるので、完璧な対応規則を制定するのが難しい状況であるものの、現時点で準備された案を了承し、実行に移しながら、VISA 発行手続きを詰めていくこととなった。

Invitation letter 等の発行についても自動で発行できるシステムの制作を検討している。

7. 大会運営委員会活動報告

浜野理事より、2019 年大会についての開催報告があった。大会参加者は年々増加しているが、受付方法を改善してきたため、参加者の入場がスムーズになり、好評とのコメントも頂いている旨の発言があった。また、今年では会場のセキュリティが、以前と比較しレベルが上がったことは高く評価できるが、現場での課題の指摘もあったので、来年の共同開催に向けて検討することとなった。

また、2020年大会準備のスケジュールが示された。

なお大会の協賛・後援団体について、現在のリストが提示され、他にも申請をすべき団体についての情報を求めていることが報告された。一方で、後援対象を整理している団体もあることを鑑み、以来対象を見直すことも検討していくこととした。

また会長から GEOFOOT の取り組みと盛り上がりで紹介された。連合大会への参加者が、事務局に負担をかけない範囲で開催できるイベントがあれば、会員の満足度を上げるという観点からも肯定的に対処してもよいとの観点と公平性を鑑み、イベントを公募して JpGU 連合大会の一環として実施するという提案があり、了承された。

8. JpGU-AGU Joint Meeting 2020 大会タスクフォース活動報告

末広ヘッドより「JpGU-AGU Joint Meeting 2020 大会 TF」活動報告があった。

大会期間中に AGU 役員との打ち合わせを行った。AGU との Meeting Agreement が示され、大会参加者の目標数値（2017年大会比 500人増）、若手研究者支援に力を入れている点等の紹介があった。

30周年記念イベントについては Agreement にも盛り込まれているので、是非早急に計画してほしいとの依頼があった。会長から、「30周年記念イベント TF」を設置したいとの発言があった。

9. 教育検討委員会報告

市川理事より、教育検討委員会の活動報告があった。教員養成検討 WG の創設、教員免許状更新講習の応募状況、アースサイエンスウィーク・ジャパン in 静岡 2019 の準備状況、パブリックセッションの開催報告、委員会総会、小委員会会議、日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成部下会地学・地理学初等中等教育検討小委員会の開催報告、理数系学会教育問題連絡会、2019年度地学教育研究集会の準備状況報告、地理・地理両オリンピックの国際大会の予定について等の開催報告等があった。

10. 環境災害対応委員会報告

松本理事に代わって高橋幸弘委員より、環境災害対応委員会の活動報告があった。パブリックセッション、ユニオンセッションに関する報告があった。いずれも好評であったため、次回の AGU とのジョイントミーティングでも国際セッションの開催を計画していることが報告された。

11. ジャーナル編集委員会活動報告

倉本理事より、ジャーナル編集委員会の活動報告があった。新しい IF が 2.676 となり、前回は上回ったこと、また編集委員会・編集長会議で Preprint Server やねつ造論文に対する方針に関する議論を行ったことなどの報告があった。「ジオエシックス (Geoethics) TF」

の活動ともリンクし、Progress in Earth and Planetary Science における行動指針なども検討している旨の発言があった。

12. その他

田近理事より、夢ロードマップ改訂版について報告があった。連合のホームページに改訂版を掲載し、広く意見を募集した。

小口理事より、ダイバーシティ推進委員会からの報告があった。大会時の保育ルームの運営について報告があり、昨年の32名から53名と大きく増加し、利用者へのアンケート調査でも好評化を得ていることなどの報告があった。

議長は以上をもって、すべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後18時45分)
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

2019年7月12日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第2回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	阿部	なつ江	印
出席理事	市川	洋	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	河宮	未知生	印
出席理事	木村	学	印

出席理事	倉本	圭	印
出席理事	中村	昭子	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	道林	克禎	印
出席監事	加藤	照之	印
出席監事	鈴木	善和	印
出席監事	氷見山	幸夫	印